



うるま市の失われた
20年を取り戻そう。
いまこそ市民の手に、希望の政治を。

うるまの未来

子育て応援政策大盛り

- 小中学校の
- 高校生までの
- こどもの
- 第3子以降の

給食費

医療費

国保税

保育料

おむつ・ミルク
子育てチケット

ランドセルなど
学用品費助成

返済不要の
奨学金を創設

その他緊急支援

生活困窮世帯の
水道料金の軽減

生活困窮世帯の
電気料金の補助



具体的には、小・中学校の給食費、18歳までの医療費、未就学児の国保税、第三子以降の保育料の4つの無料を実現します。物価が上がるなか、子育て中のお父さん、お母さんたちから悲痛な声が届いています。

特に、学校給食費と医療費については、玉城デニー県政が実施している政策に上乗せする形で、6月議会に提案し、2学期から給食費無料を実現させます。

また、おむつやミルク等の購入、ファミリーサポートセンターにも活用できる「子育て応援チケット」事業の実施、就学援助を拡充して、ランドセルなど学用品の購入助成にも広げていきます。家庭の経済状況に左右さ

給食費 2学期から無料

6月議会に提案

れず、市内で生まれ育った子どもたちに、等しく学びの機会が与えられるようにするため、市独自の返済不要の給付型奨学金制度を創設します。子どもの貧困問題は兄弟の面倒を見たり親などの介護を同時に担うヤングケアラーなど複雑で重層的な社会問題となっています。366日うるま市のために頑張る人は、目の細かいセーフティーネットが張り巡らされたうるま市、その網目から誰一人としてこぼれ落ちることのない、誰に対してもやさしいまちづくりをめざします。



3494筆の署名を市議会に提出も
現市長は完全無料化に消極的

市内小中学生の保護者らでつくる「子育てしやすい社会を願う父母の会」は2月14日、給食費の無料化を求める陳情書と、3494筆の署名を市議会へと提出しました。現市長は「無料化は県知事の公約だから県がするべき」と判断し後ろ向きです。

家計が苦しく
夜は水だけの日も…



苦しい母子世帯「早く無料に」

「母子家庭で3人の子育て中。1才の子と小学生を抱えダブルワークをしているが、生活が非常にきびしい。夜は水だけで、自分は食べない時もある。給食費は半額になったけど、本当は全額無料にしてほしい。給食費無料化の公約をにかけている候補のことを新聞を読んで知った。本当だった。がんばってほしい」
(40代シングルマザー)

夫婦、子ども3人 市試算の所得・家族構成

国民健康保険税/年間
510,100円

昨年比 46,100円増
子どもにも23,500円の負担

市民所得は11市で最低なのに、11市中、2番目に高い子ども国保税(うるま市23,500円、那覇市18,200円、沖縄市19,658円)

現市長は負担を増やすばかり

デニー
県政の実績

41全市町村中学校で半額

那覇市は市予算乗せ全額無料になぜうるま市はできないのか…

物価高騰で市民の生活が厳しくなっています。玉城デニー知事は、県内すべての41市町村の中学校の給食費の半額補助を今年4月より行っています。那覇市ではこの補助を受けて中学校の学校給食費の完全無償化を行い、小学校の半額補助を実施しています。うるま市で中学校の

給食費を無料にするには、半額の7800万円を手当すればすぐ実現できます。ところが現市長は、段階的無料化を公約に掲げながら「完全無料化を求めることを知事に要請している」との対応で、中学校の給食費も完全無料化を実施する気はまったくありません！

「国との太いパイプ」より「市民との絆」を大事にする候補へ1票を

うるま市長選挙

期日前
投票期間

4月21日 ~ 4月26日

投票日

4月27日

あなたの1票で未来を変えよう

366日
頑張る人



うるま市長候補の政策

徹底比較

現市長



2学期から完全無料

デニー県政と連携して小中学校の給食費完全無料をすぐ実現します。

給食費

半額のみ

市予算(約750億円)の約1%で実現できるのに、なぜできないの…

18歳まですぐ無料に

予算7200万円ですぐに実現できます。
※すでにデニー県政で15歳までは実現できています。

医療費

無償化に手を付けず

国との太いパイプをアピールして当選したけど4年間実施できず。

現地建て替え推進

地域住民の要望を聞き、県と連携し現地建て替えを着実に実施します。

中部病院

移転から方針転換

地域の要望を聞き入れず移転建て替えを主張。しかし突如、出馬会見で方針転換。

沖縄を戦場にしない

戦後80年、沖縄を二度と戦場にしないために、陸自勝連分屯地への長射程ミサイル配備に反対

ミサイル配備

反対せず国の言いなり

安全保障は国の専管事項と判断を避け、政治姿勢は国の言いなりです…



市民の手に希望の政治を

今の現状維持ではこの閉塞感を打ち破ることはできません。現状を変えるには新しいリーダーが必要です。自民党の政治と裏金、その問題が有権者の皆さんに大きな政治不信を招いています。私たちの未来は、私たちが決めていくのです。

ふるさと沖縄、うるま市は、80年前の戦争で多くの犠牲者を出しました。合併20年の節目、戦後80年の節目、このうるま市を国との太いパイプを強調する市長ではなく、市民との絆を大切にする市長に変え、市民と共に希望ある、うるま市をつくっていきましょう。